

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501057		
法人名	宗教法人天理教飯田市分教会		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	飯田市羽場権現1611-2		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成26年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域社会の中で、自立とふれあいを大切に高齢者の尊重を守り明るく健やかに暮らせるよう生活全体に亘る支援をしています。入居者、職員が共に「ようきぐらし」を実現できるよう、感謝、慎み、たすけあいの心を持った生活を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宗教法人の掲げる「ようきぐらし」「奉仕の心」を基本に、法人の家族経営の利点や開所以来、大きく職員が変わらないということもあり利用者・職員が共に和やかに、落ち着いた環境で生活されている。地域との関係や理解も深まり、災害時の協体制や地区行事への参加などが充実してきている。開所当初から「絵手紙」のボランティアさんが毎週訪れ、利用者が楽しんで作品を描き壁に張り出すなど、ホーム全体が暖かな雰囲気になっている。接遇や身体拘束、記録の書き方等、課題や必要な内容について研修を行い、サービスの向上に向けて取り組まれている。昨年より実施している、職員の意識向上・振り返りのチェックは、今後も継続され、さらによりよいホームを目指されることを期待したい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所は認知症高齢者の法令を理解し、宗教法人の「ようきぐらし」「感謝、慎み、たすけあい」を理念としている。職員は事業所理念を共有し、利用者、職員が共にたすけあい、なかよく暮らせるよう理念の実現に努めている。</p>	<p>事業の目的として「ようきぐらし」のできる社会環境を作りだすことを目指すとあり、利用者も職員も共に仲良く楽しく暮らしていけるよう「たすけあい」の精神をうたっている。法人の会長は、日頃から機会をみつけて職員に目指すところを話している。自己点検表に理念の理解を掲げ確認して実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会へは、宗教法人として加入しています。毎週地域のボランティアの方が来て絵手紙を教えてください。毎年地区の文化祭には作品を出展し、皆で見に行きます。運推を通して、地区のお祭りでは山車がホームの庭できおいをしてくださるようになった。</p>	<p>宗教法人として地域に根ざし、ホームだけでなく教会や法人の家族も同一敷地内に居住して暮らしている。法人として地区の行事や公園の清掃活動にも協力しており、9年目を迎えたホームへの理解も広がっている。文化祭への参加、お祭りの山車が庭まで来てくれる、近所の方から野菜が届くなど交流がある。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>市内の中学校の福祉体験学習の受け入れを通し、認知症や施設のことを知っていただける機会がもてました。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度、自治会、民生委員、老人会、ボランティア、地域包括、ご家族の方にご参加いただき開催しています。地域の催し、災害時の協力体制等アドバイスをいただいています。地域の方々をサポートしていただきサービスの向上につながるよう勤めています。</p>	<p>定期的に2ヶ月に1回開催し、実際に災害時の体制や地域の行事への参加等についてのアドバイスを受け実践につなげている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議のときなど、地域包括支援センターの職員に状況を話しています。また必要に応じて連絡や相談に出向いています。</p>	<p>運営推進会議以外にも、入居者についての相談や運営についてなど、地域包括支援センターや介護高齢課に出向いて、協力関係を築いている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束禁止について学び、拘束のないケアに努めています。玄関の施錠は夜間のみで、日中は施錠していません。	昨年6月には、禁止となる対象の具体的な行為について、ひとつづつ確認していく研修を行った。転倒防止のため利用しているセンサーマットについても、家族の同意を得るなどの配慮をしている。自己点検表にも身体拘束の項をいれ、意識的に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で勉強会を行い虐待について学び、決して虐待がないよう努めています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は勉強会で学び、管理者は研修を受け必要な人には活用し、また、活用できるよう支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際十分な説明をし、納得された上で印を押して頂き、契約を結んでいます。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より気兼ねなく、意見が聞けるよう意見箱を設置しています。また、運営推進会議に参加を呼びかけており、会議のときに意見や、要望をお伺いしています。	運営推進会議へは、全員の家族に参加を呼びかけている。また、ほとんどの家族が1ヶ月に1回以上の面会があり、その際にも要望や意見を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別場を設けることはないが、日常の申し送り時や、ヘルパー会の中で出た意見や、提案は管理者、代表者へ持ちかけている。	朝夕の申し送りの時間が、意見や提案を出す機会となっている。行事に教会施設を借用する、備品の購入、勤務についてなどだされた意見は管理者が法人の代表に伝え、可能なところから実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用時に出来るだけ勤務しやすいよう、また、やりがいを持って勤務できるよう話を聞くようにし、雇用後も働きやすいよう環境や、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員がよりよいケアを提供できるよう、継続研修を年間1回以上受けるよう規定に定め研修を受ける事を推進しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの管理者、職員が交流する機会を持ちサービスの質を高められるようしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の安心と、関係づくりで一番大切な時期ですので、ご本人の思い、ご家族のお話をよくお聞きし、ご本人の思いを受け止めていけるよう心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み、不安に思っていることをよくお聞きし、少しでも不安が和らぐよう、また、安心して入所して頂けるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の事情をよくお聞きし、ホームで出来るサービスを検討し、ご本人、ご家族に必要なサービスを第一に他のサービス利用も含めた対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念にあるように、職員、ご本人が共に喜びをもって過ごし、お互いにたすけあい、お互いに感謝し合いながら日々を大切に過ごせるよう努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と、ご家族の生活歴や、事情をよく理解して、よりよい関係が続くよう努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	原則、月々のお支払いはホームでして頂く事になっており、月に1回は来て頂けるよう支援しています。また、ホームでの行事や、お花見などご家族の方に連絡し、一緒に楽しめる機会を設けています。	毎月1回は家族が面会に来ており、中には毎週面会に来られる家族もいる。近所の方や友人の面会、以前からかかっていたマッサージ師さんが継続してくれてくることもある。家族の協力を得て、自宅や墓参り、外食に行くなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活が違ってきたので、そのことを理解し、共に生活する者同士孤立することなく、関わり合いをもてるよう支援しています。事業所理念の下による気暮らしの実現に努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談等に応じています。また解約時にその旨をお伝えることで退所後もフォローできるよう努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを使用し、ご家族からも情報を得て、利用者の状況や思いを把握しまとめています。日頃の会話や行動からご本人の意向を汲み取れるよう努めています。アセスメントシートは、半年に1回は見直しています。	記録についての研修を行い、日々の記録には、本人の発した言葉や会話を具体的に記入されており、そこから希望や意向を読み取ることができる。センター方式を使用し、本人の思いを把握しており、定期的に見直しがされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係者よりお話を聞き、またアセスメント等情報の把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが生活の中で観察し、情報を共有し一人ひとりの現状の把握に努め、また適切なケアが出来るよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議は2ヶ月に1回は開催し、モニタリングを少なくとも半年毎に行い、話し合いで出された意見を参考に介護計画を作成しています。ご家族や、ご利用者とは面会時に説明し希望等お聞きしています。	モニタリングはプランに基づき、3ヵ月あるいは6ヶ月毎に行い、ADLの状況もチェックして検討している。担当者会議では、利用者の困ること、希望することを話し合いで確認している。家族には、面会時に時間を設けて希望を聞き、介護計画に反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの経過記録と、申し送りノートで情報を共有し、ケアへの実践に活かし、またそれを計画書の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの状況、ニーズをよく見極め、必要な場合には他のサービスも含めご本人、ご家族にとってよりよいサービスへの支援ができるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に絵手紙を教えて頂き、作品を家族や、知人に送ったり、地域の文化祭で発表させてもらったりすることで、楽しみと目標を持って取り組めるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、ご利用者、ご家族の希望に添えるよう支援しています。また地域の医師に事業所の主治医を勤めていただき定期的な往診や、相談のほか、緊急時に来ていただけることをご利用者、ご家族に安心していただいています。</p>	<p>希望を聞いて、基本的には、ホームの主治医が往診して対応している。眼科、泌尿器科などの通院は家族が付き添っているが、行けない場合は職員が支援している。主治医とは、ケアマネジャーが中心となって連絡をとっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけの看護師に相談等、連絡を取り合い、状況に合わせた対応が出来るよう努めています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は病院関係者、ご家族と連絡を取り合い情報の交換等、ご利用者、ご家族が安心して治療できるよう努めています。また協力医療機関にはそうした場合に備えて対応して頂けるよう関係づくりをしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者の思いをご家族、医師と話し合いよりよい終末期を迎えられるよう支援しています。また、併設する施設で対応できる場合もあり、入所前の説明の他、重度化に伴いご家族と話し合いを持ち対応しています。</p>	<p>看取りについて、法人内、ホーム内で検討し、ホームでは看護師がいないこともあり、体制がとれないため行わないことを決めている。しかし、個別に対応し、特養へ移る方、法人内の介護センターで介護を受け、最後まで暮らす方など、本人や家族が安心できる体制をとっている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応として勉強会をし、また日々の申し送り等で注意点や、その時の対応等を話し合い、実践できるよう備えています。また、法人の看護師に勉強会をしていただいている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所内での訓練、シュミレーションの他、運営推進会議で火災の他起こりうる自然災害と災害時の地域の協力体制について話し合いをもち、災害時には協力していただけることとなった。</p>	<p>前回評価の課題であった、夜間想定避難訓練を行い、地震災害に対応してホーム内の家具を点検するなど対策をすすめている。地域との関係では、推進委員会からの提案があり、火災の際には近隣の二つの組合組織が交互に応援にかけつける体制ができています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を尊重し、一人ひとりに合った言葉かけや対応ができるよう努めています。また誇りやプライバシーを損ねないケアが出来るようヘルパー会や、日常の申し送り時に意見を出し、職員間で共有できるよう努めています。	接遇についての研修を行い、トイレ誘導時など日々の声かけや接し方、呼び方など、一人ひとりの尊重やプライバシーの確保について職員間で話し合った。毎月の振り返りチェック表にもコミュニケーションやプライバシーの項を設け各自見直す体制をとっている。	現在6人の定員で、なごやかな雰囲気がある。時として、馴れ合ってしまう場面もあるので、引き続き管理者等を中心に職員間で利用者にとって良い関係作りや、利用者の人格を尊重した対応について研修されることを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけなどで、ご本人の思いや、希望を引き出せるよう工夫し働きかけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの暮らしを把握し、できるだけ一人ひとりの生活リズム、希望に沿って、その人らしく暮らせるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを尊重し、言葉かけや洋服選びなど支援をしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が困難にならないよう、調理や食器を一人ひとりに合わせています。また皮むきや食器拭き、片付けをそれぞれが出来ることを職員と一緒にに行っています。季節や行事に合わせて五平餅、おはぎを皆で作ったり、流しそうめんをしたりしています。	献立(昼食・夕食)は、法人内の栄養士が一週間毎に季節や好みを配慮して作成している。季節に合わせてみんなで話し合って、行事食や庭で行う流しそうめんなど楽しんでいる。下ごしらえや食器の片付けなど、できることを職員と一緒にいき、訪問日も、それぞれが衛生面に配慮して食器拭きを行っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの既往歴や、今までの暮しと、現状を把握しそれぞれに応じた支援をしています。また、困難な場合にはご本人、ご家族に好みの物をお聞きし、無理なく摂取できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	いつまでも美味しく食事が出来るよう、言葉がけや見守りをしています。状況によって介助をし、清潔、機能維持に努めています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全てのご利用者がトイレを使用しています。それぞれの排泄パターンを職員全員が把握し、失敗が少なくなるよう言葉がけやケアをしています。夜間は転倒の危険のある方はポータブルトイレを使用しています。	2名の方が下着、他の方はハビリパンツを使用しており、排泄パターンを把握して失敗しないよう配慮して、全員、日中はトイレで排泄できるよう支援している。夜間のみオムツ使用者、ポータブルトイレ利用の方がおり、夜も必要な方には声をかけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員間で学ぶ機会を持ち、献立、個々に応じた食事形態の工夫、水分補給、体操など自然に排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4日お風呂を準備しています。ご本人のタイミングや、体調に合わせて入れるよう支援しています。	午前、午後と希望を聞いて入浴順を変えたり、ゆず湯や入浴剤を選んでもらうなど楽しみながら入浴できるように工夫している。入居者の状況に合わせて週2回の入浴以外に、夏場などはシャワー浴を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム、状況に応じ、寝具を含めその人が気持ちよく休息、睡眠をとれるよう、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や、薬局からの説明、資料をもとに個々にファイルを作成している。職員全員が把握し、また学ぶ機会を持ち理解に努めている。変化がある場合は医師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、お膳立て等生活の中で出来る事をしていただき、それぞれに張り合いや、楽しみを持って生活できるよう支援している。また、レクリエーションや季節の行事で気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は庭に出たり、近所の神社まで散歩に出かけたりしています。また、定期的にご家族と出かける利用者の方もおられます。	法人内の敷地は広く、庭に出るだけでも気分転換ができる。回りには果樹園や神社があり散歩コースにも恵まれている。季節に応じてドライブや地区の文化祭や飯田市美術博物館に行くなど、希望を聞きながら行っている。家族と一緒にの外出も支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はご本人がお金を持つことの大切さを理解しています。ご本人や、ご家族の意向、現状を話し合い本人の希望に添えるよう支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを希望された場合対応している。また、絵手紙を描きご家族や、友人に送る支援をしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の歩行、寒くない場所、外の光がまぶしくないよう一人ひとりが居心地のよい席の配置であるよう心がけています。また、庭には四季折々に花や樹木が彩り季節が楽しめます。	カレンダーに今日の日付がわかるように付箋をつける、洗面台のシンクにあたってもいいようにクッションを貼るなど細やかな配慮がされている。訪ずれた子どもたちが描いた鬼の面や入居者と職員で折った鬼の折り紙など毎月のように掲示物を変える工夫して、季節感を採り入れている。庭に面したガラス戸は広く、天気や季節がわかる造りになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でもそれぞれが過ごせるよう支援しています。また、気のあったご利用者同士が隣になるよう工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに合った居室であるよう配慮しています。また、好みのものや、ご自分で作った作品を飾ったり、使い慣れた物をつかい、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	一間の押入れがあり、衣類等その中に整理されている。壁に、絵やカレンダー、色紙を掲示したり、使い慣れたたんすや位牌のある方、こまごまとした私物を置くなど、それぞれに工夫して過ごされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋割りも含め、一人ひとりが安心して安全に過ごせるよう工夫しています。また、レイアウトを工夫しご本人の自立を支援しています。		

目標達成計画

作成日：平成 26 年 3 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	なごやかな雰囲気があるが、時として、馴れ合ってしまう場面がある。	親しみのある言葉がけだけでなく、利用者の人格を尊重した言葉がけ、対応が出来るようになる。	職員全員が再度、人格の尊重とプライバシーについて学び、積極的に改善に取り組む。また、継続して見直し、取り組みが出来るよう定期的に内外の研修を行う。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。